



**PHILIPS**

Seminar



## 日本睡眠学会第42回定期学術集会 ランチョンセミナー1

日時：2017年6月29日(木) 11:50～12:40

会場：A会場（パシフィコ横浜 会議センター 1階「メインホール」）

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1

### 『睡眠医療におけるICTの貢献』

座長：成井 浩司 先生

（国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 睡眠呼吸器科 部長）

千葉 伸太郎 先生

（特定医療法人愛仁会 太田総合病院記念研究所附属診療所 太田睡眠科学センター 所長）  
（東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科教室 准教授）

#### 1. ICT×行動科学が生み出すCPAP診療

演者：田中 春仁 先生

（岐阜メイツ睡眠クリニック 院長）

#### 2. ICTを活用したSAS診療

演者：吉嶺 裕之 先生

（社会医療法人春回会井上病院 内科・呼吸器科 副院長）

参加方法：整理券制ではございません。先着順にて受付をさせていただきます。

共催

日本睡眠学会第42回定期学術集会 / フィリップス・レスピロニクス合同会社

# 日本睡眠学会第42回定期学術集会 ランチョンセミナー 1

2017年6月29日(木) 11:50~12:40 A会場 (パシフィコ横浜 会議センター 1階「メインホール」)

## 1. ICT×行動科学が生み出すCPAP診療

田中 春仁 岐阜メイツ睡眠クリニック

情報通信技術(ICT)を用いた持続陽圧呼吸療法(CPAP)機器稼働状況のクラウドデータシステム(CDS)は、安定的に利用でき、一定の条件下の診療渋滞が改善して、未受診割合には影響がなかった。また、CDSはオンライン診療や医療連携など新たな診療体系を広げる。一方、近年増加している病感が乏しい受診者に対しては、行動科学の視点からCPAP導入時のリスク認知や動機づけ面接の実施、不安と不眠の制御が重要である。CDSと行動科学を用いた早期介入によりCPAP脱落防止ができる例がある。さらに、CDSの大規模データ分析において長期的なCPAPアドヒアランス維持とCPAP自己効力感が相関していたことは、自己管理用ICTシステム活用の方角性を示す。ICTと行動科学の組み合わせは、より"生産性"が高いCPAP診療を生み出すと期待される。

職歴	昭和61年 岐阜大学医学部卒業後、第二内科(現循環呼吸病態学) 昭和63年 大阪府立羽曳野病院 呼吸器科、呼吸集中治療室 平成元年 岐阜市民病院 呼吸器科・循環器科 平成6年 岐阜赤十字病院 呼吸器科・スリープセンター 平成20年 岐阜メイツ睡眠クリニック 平成29年 岡崎メイツ腎・睡眠クリニック(兼職)	現在	岐阜メイツ睡眠クリニック 院長 岐阜大学循環呼吸病態学:非常勤講師 愛知医科大学睡眠科:客員研究員 日本睡眠学会 :認定医、評議員 教育委員会(CBTセミナー作業部会):委員 認定委員会(検査技師、心理士準備、睡眠医療安全管理WG):委員 米国睡眠行動医学会(SBSM):BSM provider 米国睡眠検査技師会(BRPT):米国睡眠検査資格(RPSGT) 日本内科学会:総合内科専門医 日本呼吸器学会:専門医、指導医 日本循環器学会:専門医 日本動機づけ面接学会:理事 動機づけ面接トレーナーネットワーク(MINT):メンバー 日本人生哲学感情心理学会:REBT心理士補
----	--	----	---

## 2. ICTを活用したSAS診療

吉嶺 裕之 社会医療法人春回会 井上病院 内科・呼吸器科

日本の睡眠医療の問題点として、厳しい医療費財源、専門医療を行う医師や検査技師の偏在化、未診断及び未治療の睡眠呼吸障害(SDB)患者の存在などが挙げられる。これらの解決策として、効率の良い医療受診システム、離島や僻地など医療過疎地域に住んでいる方々を含む患者の睡眠医療専門医療機関へのアクセス向上、潜在的な睡眠呼吸障害患者の掘り起こしが求められている。睡眠医療の検査や治療においては主としてデジタルデータおよびデジタル機器のマネージメントが中心となるが、ICTを用いた遠隔モニタリングや遠隔診療と対面診療を適切に組み合わせた医療の提供が鍵になると思われる。

当施設では積極的にクラウド型CPAPモニタリングを用いている。新規CPAP治療を導入するSDB患者に対して、CPAP導入直後からきめ細かいモニタリングとアドバイスを行っており、早期のトラブルシューティングを図り、CPAPアドヒアランス向上を目指している。継続通院中のCPAP治療患者においては、患者、医療機関及びCPAP関連企業の負担軽減を図っている。

また、複数の医療機関が一人の患者の情報を共有可能なCPAPモニタリングシステムとウェブ会議システムを組み合わせ、睡眠検査結果やCPAPメモリーデータを用いた治療について専門医療を患者とかがかりつけ医に提供する形の遠隔診療(DtoD/P)を試みている。

今回は、長崎地区および海外の医療機関間の遠隔診療の取り組みなどについて提示し、ICTを用いた睡眠医療展開の可能性や問題点について解説する。

略歴	平成2年 長崎大学 医学部卒業 同年 長崎大学熱帯医学研究所臨床部門(熱研内科)入局 以後、 関連病院に転出。 平成18年 社会医療法人春回会井上病院 内科部長 平成24年4月~ 社会医療法人春回会井上病院 副院長	専門領域	呼吸器内科、感染症内科、睡眠呼吸障害、禁煙診療
		所属学会	日本内科学会(専門医・指導医) 日本睡眠学会(認定医) 日本呼吸器学会(専門医) 日本感染症学会(専門医・指導医、評議員) ICD(Infection Control Doctor)

### 最近の活動

最近数年は虎の門病院 成井浩司先生と共に、海外在留邦人の睡眠医療に関する諸問題解決への取り組み、日本のSAS診療のアウトバウンドを目的としたプロジェクトの推進、ICTを用いたSAS診療の展開の実現化に向けた取り組みを行っています。経済産業省 平成25年度および平成26年度 医療機器・サービス国際化推進事業 予算獲得。

フィリップス・レスピロニクス合同会社

〒108-8507 東京都港区港南二丁目13番37号フィリップスビル  
www.philips.co.jp/healthcare

